

“ART&SCIENCE”、その先にあるもの



奥谷友理

(株)資生堂 ブランド価値開発研究所
[220-0011] 横浜市西区高島1-2-11
専門は界面科学, 皮膚科学.
yuri.okutani@shiseido.com

「あなたのご専門は？」

学会などに出かけていくと、このような質問から会話が始まることは少なくないと思います。私自身のキャリアを振り返ってみると、転職を2度経験し、仕事を通して実現したいことが明確になってきたと実感する一方で、専門性は希薄になっていっているように感じているのも事実です。今回の依頼をいただいた際に、「バックグラウンドが高分子の人に」ということだったので、私でいいのだろうかとは思いましたが、さまざまな場面で多様性が叫ばれる中、研究職のキャリアパスももっと多様で柔軟であっていいはず、そんな思いを少しでもみなさんにお伝えする機会になればと思い、お受けすることにしました。

ここで簡単に私の経歴をご紹介します。大学ではセルロースの酵素合成と材料利用の研究に取り組んでいました。ご縁があって花王に新卒で入社し、しばらくはセルロースに関連する仕事に従事しました。その後、皮膚洗浄料の技術開発に携わるようになりました。1度目の転職を経て、前職のパルファン・クリスチャン・ディオールでは、洗浄料に限らず広くスキンケアの処方開発の仕事に携わりました。現在は資生堂で洗浄料の技術開発や商品開発を行っています。

職業人生の Anchor

私がキャリアにおいて大切にしたいことは、ものづくりに関わるということ、そして、グローバルに働くということです。幸運なことに、花王ではいろいろな国の人と仕事をし、現地に足を運んで海外のお客さまの肌を直接観察するという機会をいただきました。異なる環境で生活する人のさまざまな価値観に触れることで、自分自身の視野が広がっていくのを実感できた、大きな経験でした。

「転職してよかった？」と聞かれれば、私は間違いなく Yes と答えます。環境を変えることで、それまでの当たり前が当たり前でなくなることがたくさんあり、そのたびに大きな学びを得ることができました。

ただ、2度目の転職活動中は「なんだか決め手に欠ける」そう感じていました。

そんなときに、「世界のエリートはなぜ「美意識」を鍛えるのか？」¹⁾ という本に出会いました。なんとなく手に取ったのですが、私はこの本から非常に大きな示唆をもらいました。近年、企業の幹部が美術館に足を運びアート鑑賞プログラムに参加しているそうです。筆者は、「サイエンス」「クラフト」「アート」を経営に必要な要

素として挙げており、サイエンスとクラフトに偏重した意思決定は、複雑で不安定な世界においてビジネスの舵取りをすることはできないと論じています。システムの変化が速すぎてルールの整備が追いつかない世の中では、判断を自身の中に内在化された美意識に頼らざるを得なくなってしまうためです。狭い世界の無言の掟を見破るだけの異文化体験と美意識をもつことが重要であり、そのためにアートを学ぶのだと言います。

私自身に置き換えて考えてみると、条件を基にメリットとデメリットを比較し選択していくという、まさに、データ偏重の判断に陥っていました。コロナ禍で人とのかわりが希薄になり、生産性を上げていくことを重視するような働き方にシフトしていく中で、何かを感じ取って判断する“第六感”のようなものを見失いかけていたように思います。誰と一緒に仕事がしたいのか？ この会社で働きたいのか？ これらが2度目の転職活動の決め手になりました。

ART&SCIENCE

わたしたち資生堂には、「THE SHISEIDO PHILOSOPHY」という企業理念があり、すべての社員のよりどころになっています²⁾。その中で私がとくに共感しているのは、OUR DNA 中の“ART&SCIENCE”という部分です。Art と Science、一見相反するようには見えるものですが、Science だけでは語り切れない部分があるというのは、先述の本の中でも論じられていたことでした。この“ART&SCIENCE”という言葉は、「“こっちのほうが美しいから”こんな選択肢があってもいいんじゃない？」そんな投げかけをしてくれているようにも感じます。美しさというのは顧客価値に限ったことではなく、処方や技術、化学反応を考える際にも必要な視点かもしれません。新たな技術や商品を生み出し、お客さまの美しさの深化に貢献できるよう、これからも日々の業務と向き合っていきたいと思っています。

私は2度転職を経験しましたが、決して転職だけが転職機ではありません。キャリアは自分で切り拓くものです。必要なリスクは覚悟を決めて背負って、前に進みましょう。最後まで読んでくださった方に、私の思いが少しでも伝われば幸いです。

文 献

- 1) 山口 周, “世界のエリートはなぜ「美意識」を鍛えるのか? 経営におけるアートとサイエンス”, 光文社新書.
- 2) “THE SHISEIDO PHILOSOPHY”, 閲覧日: 2023/03/15